

【用語】群馬郡北牧村―北群馬郡子持村 金井村―渋川市金井 出府
―江戸に出ること 一躰―総じて 岩鼻御役所―群馬郡岩鼻村に置か
れていた幕府代官の陣屋 偏ニ―ひたすら 趣意―意見 川船御役所
―幕府の河川交通統制機関、延宝六年から運上を徴収した

【解説】三国街道奈ヶ橋関所の北側に吾妻川の渡し場があった。ここには古くから勿橋はなはしが架けられ、金井と北牧の両村が橋元となり、橋附き村には渋川や吹屋など一三カ村が指定されていた。しかし、この勿橋は吾妻川の出水でたびたび流出しており、元禄十年（一六九七）から寛保二年（一七四二）までに一九回もの架け替えが行われた。その後、天明三年（一七八三）の浅間焼けでも橋が流出し、以後、天保期頃までは主に渡船が利用されたようである。

この文書は、橋元両村から幕府の川船役所に対して、渡船鑑札の書き替えを従来の毎年八月から五年季に変更してほしいと願い出たものである。その理由として、両村は困窮の村方で、毎年書き替えのため出府することは難儀であると記している。とくに北牧村は浅間焼けで壊滅的な被害を受けたため、浅間焼け後から文化年間頃まで吾妻川の賃渡船を一手に引き受け、村復興の助成としたようである。なお、この渡し場が大水などで不通の時には上流の祖母島うばしま・小野子村間の渡船や、さらに上流の長須万年橋が利用された。